

事業計画書

事業名	「この街にもっといただきますを」事業
団体名	特定非営利活動法人ディープデモクラシー・センター

<p>取り組もうとする松戸市のテーマ(課題)</p>	<p>孤食、個食という言葉が1980年代に使われるようになってから、30年以上も経ちました。食、食べるということと本来似合わないはずの、個別の「個」、孤独の「孤」という文字が警告の意味で示した未来(=現代)は、予想よりも遥かに暗い現実となり、様々な想像もしなかったような事件として表面化しています。また、家庭崩壊、コミュニティ崩壊、と言われるようになってからも、ずいぶんと時間が経っています。孤食、個食ももちろんですが、閑散とした商店街、担い手不足によるお祭りの衰退、孤独死、介護難民、保育難民、老人漂流社会など、現代社会のあらゆる場面に、崩れ、壊れてしまった「関係性」が見られます。</p> <p>そしていま、ひと、家族、コミュニティの崩壊が限界まで近づき、その壊れて(壊して)しまった「関係性」を大きく修復することもなく、個人や家庭に押しつけようとする「チカラ」や「空気」が出現しています。「個人責任」という考え方です。安全で幸福な食を、子育てを、高齢者の介護を、生きづらいう若者たちの世話を、それは個人の責任だとして、個人(家族)に押しつけることが多く目につくようになってきました。そのことが、「ちゃんとやらなくちゃ」という新たな強迫観念を生み、さらに生きづらさを増幅させることとなっています。</p> <p>私たちは、そこを、地域から、小さくても変えていきたいと思っています。ケアは地域コミュニティでの支えあい、助けあうことでこそ、実現していくのだと考えます。</p>
<p>事業の目的</p>	<p>「食べる」ことが持っていた関係性を増やしていく力を積極的に利用するために、この地域に「いただきます」を増やしていきます。今回は、「食べる」ことについてのお話を、とっておきのごはんをたべながら、みんなでいっしょに聞きます。「食」「食べる」ということをあらためて考え直すイベントを行い、「食べる」ということを通じた場づくりの重要性をより多くの市民と共有することを目的とします。</p>
<p>事業内容</p>	<p>1 事業内容</p> <p>① みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会(春)の開催 (「宮沢賢治の菜食思想」講師[予定]・鶴田静さん[作家]) (ごはん[予定]・るんた里山ごはん[千葉県鋸南町])</p> <p>② みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会(秋)の開催 (「食べることを考えること」 講師[予定]・藤原辰史さん[京都大学人文科学研究所准教授]) (ごはん・[予定]オーガニック・カムー[松戸市])</p>

	<p>2 スケジュール</p> <table border="1" data-bbox="491 257 1390 741"> <thead> <tr> <th data-bbox="491 257 635 304"></th> <th data-bbox="635 257 959 304">具体的な取り組み</th> <th data-bbox="959 257 1390 304">実施体制、対象、場所など</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="491 304 635 436">4～5月</td> <td data-bbox="635 304 959 436">準備・広報</td> <td data-bbox="959 304 1390 436">スタッフによる企画、デザインなど。市内公共施設などへの告知、メディアへの広報。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 436 635 568">5月</td> <td data-bbox="635 436 959 568">みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会（春）の開催</td> <td data-bbox="959 436 1390 568">広く市民に向けて、市内公共施設にて。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 568 635 701">11月</td> <td data-bbox="635 568 959 701">みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会（秋）の開催</td> <td data-bbox="959 568 1390 701">広く市民に向けて、市内公共施設にて。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 701 635 741">12月</td> <td data-bbox="635 701 959 741">まとめとふりかえり</td> <td data-bbox="959 701 1390 741">スタッフによる報告書作成。</td> </tr> </tbody> </table>		具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など	4～5月	準備・広報	スタッフによる企画、デザインなど。市内公共施設などへの告知、メディアへの広報。	5月	みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会（春）の開催	広く市民に向けて、市内公共施設にて。	11月	みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会（秋）の開催	広く市民に向けて、市内公共施設にて。	12月	まとめとふりかえり	スタッフによる報告書作成。
	具体的な取り組み	実施体制、対象、場所など														
4～5月	準備・広報	スタッフによる企画、デザインなど。市内公共施設などへの告知、メディアへの広報。														
5月	みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会（春）の開催	広く市民に向けて、市内公共施設にて。														
11月	みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会（秋）の開催	広く市民に向けて、市内公共施設にて。														
12月	まとめとふりかえり	スタッフによる報告書作成。														
<p>既存の事業からステップアップする部分 ※ステップアップ助成のみ</p>																
<p>事業の目標</p>	<p>みんなで食べながら、食についてのお話を聞く会・参加者（のべ）60人 アンケートによる、「食べる」ことへの理解、関心が高まった 85% 「食べる」ことへの重要さに気がついた 85% 「食べる」ことを通じた場づくりがしてみたい 65% 「食べる」ことに関して何かしてみたくなった 80%</p>															
<p>今後の展望</p>	<p>すでに私たちは野宿者への食糧支援を、松戸駅周辺で開始し、今秋からは、ひとりで家で食事をしている子どもたちへの子ども食堂を、市内・矢切地区で開始します。「食」をとりまくこと、「食べる」をとりまくことへの関心を高めることは、社会のあり方や、地域のあり方を考える大きなきっかけとなります。目の前の一食から始まる物語は、地域の歴史や生産、人々の営みから国家や世界情勢まで無限です。空腹を満たすためだけの「食」と、だれかといっしょに、「いただきます」と言って食べる「食」は、まるで違う次元の行為です。そこには「関係性」の存在があります。地域、コミュニティもまた本来、「関係性」によって成るものです。それが失われてしまったいま、わたしたちはもういちど、「いただきます」を増やしていくことを目指します。そのことが、新たな「関係性」を紡いでいくプラットフォームであり、そのことが、地域コミュニティにとって必須のセーフティネットに他ならないと考えています。コミュニティカフェ、宅老所、生産直売所、持ち寄り食堂、ワンデイシェフによるコミュニティキッチン・・・、「食べる」ことを共通項とした場に参加する市民が増えることは、地域コミュニティにとっての明るい可能性となると私たちは信じています。</p>															

(第6条関係)

事業の予算概要

【収入】

(単位：円)

科目		金額	積算内訳
団体	団体拠出金	¥ 21,080	対象事業費の一部及び対象外経費を団体の会計より拠出
	事業収入	¥ 60,000	1000円*60人(参加費【お弁当代】)
		自己資金の合計額(A)	¥ 81,080
市	市民活動助成金(B)	¥ 99,000	
合計額(C) = (A+B)		¥ 180,080	

【支出】

科目		予算額	積算内訳
助成金の交付対象経費	報償費	¥ 85,000	外部講師謝礼(2回)
	印刷製本費	¥ 5,000	広報チラシの印刷代(2回) 各1,000部
	消耗品費	¥ 2,000	チラシ用紙 2,500枚
	使用料	¥ 8,080	会場・調理室使用料 640円*8時間 370円*8時間
	通信費	¥ 10,000	送料 チラシ発送分
		対象経費の合計(D)	¥ 110,080
その他経費	委託料	¥ 60,000	イベントお弁当代【参加者用】 30食*2回
	交通費	¥ 10,000	スタッフ交通費
	その他経費の合計(E)	¥ 70,000	
合計額(F) = (D+E)		¥ 180,080	

【チェック項目】

- 1 助成金(B)が、対象となる経費(D)欄の90%以内であること。
- 2 自己資金(A)欄が、「対象経費(D)欄の10%以上」であること。
- 3 助成金(B)が、スタート助成の場合は1事業あたり10万円以内、ステップアップ助成の場合は1事業あたり30万円以内であること。
- 4 対象経費については、必ず証拠書類を添付すること。